

大きな目的・目標を 持てる教育を

一般社団法人日本シニア起業支援機構(J-SCORE)代表理事

松井 武久



1943年中国・青島生まれ。山口大学工学部を卒業後、1966年に三菱化成(現・三菱化学)に入社。機械技術関連の仕事に携わる。2000年に三菱化学MKV(株)常勤監査役。退職後、(一社)日本シニア起業支援機構(J-SCORE)を設立、代表理事に。

日本シニア起業支援機構は、培った知識や経験を活かして社会貢献するという精神を重視しているが、「師」となって助言をする立場の「ビジネスメンター」として大切なことは、「上から目線」や自分の経験を過大に評価する姿勢を止めることである。普段はそうでもないのに酒の席では「説教調」になる人がある。ものづくりの分野での専門家がいろいろに、自分の知識や経験を相対化する態度で接することはなかなか難しい面もある。

ビジネスメンターとなるには、昔の名刺の肩書きや役職などは意味がないの

で「○○さん」などと互いに呼び合うようにしている。それぞれの分野の専門家であるが、ベンチャーのように新しい分野で起業して成功するためには、柔軟な発想や、自分の価値観とは違う視点からの分析がとても重要になってくる。自分以外の、なるだけ多様な視点で評価する姿勢が求められるわけである。また、メンターは相手の意見を批判するのではなく、まずは真摯に受け止めて、褒めるべき点があれば上手に褒めるといふ態度が必要にある。また、シニアの側にとっても、さまざまな世代の人と接することも、生きがいになり、健康維持などの面でも効果が期待できる。

倫理観は、大人になってからでは手遅れで、なるべく小さい頃から教えていく必要がある。その意味で、学校の先生方や教育に対して社会が期待するものは大きい。小学生のころは、私自身は山口県萩市で育ったので、吉田松陰の生き方にあこがれ「世のため人のため」という意識が育ったように思う。二宮尊徳や、その他の郷土の偉人など、なるだけ具体的な人物の生き方を通して、倫理観の基礎になるものを子どもたちに培っていく必要がある。中学生では友情など、高校以上では、人生とは何かについて、深く考える機会を通して、人間性の土台になるものを学校教育で育てていくことが必要

と感じている。そのためには、先生方自身の倫理観や人間性を高める機会も必要ではないだろうか。

現在、政府では、成人人口に占める起業家の割合を5%前後から10%に引き上げる施策が遂行されている。そのためには毎年10万件的な起業数の増加が必要になる。日本経済の着実な発展のためには、まず起業させることではなく、起業家を発展軌道に育成することがより重要になる。そのためには、起業の成功を起業家本人以上の熱意を持って取り組むビジネスメンターが数万人規模で必要になる。

起業家教育の必要性が叫ばれている一方で、学校教育の現場では定着していない現状がある。起業を実際に支援する現場では、このようなビジネスメンターの確保など、起業家を育てる人の役割が大きい。が、そもそも「なぜ起業するのか」という目的に立ち返る必要がある。起業というと、何か新しい事業を興して、それで儲けるというイメージが強いが、それは起業する個人にしか目が行っていない。「よい大学に行ったり、よい企業に就職すること」という、本来は手段でしかないものが人生の目的になってしまっている。「起業をして、○○をしたい」という大きな目的・目標を持つことがより大切で、そのためには、教育の果たす役割はとても大きい。